



シリーズ

小豆島の
多様な担い手

保全活動による美しい棚田を後世に！

～小豆島町中山棚田協議会～



棚田の収穫風景

九野会長

小豆島町中山地区の棚田「中山千枚田」は、里山の原風景の一つであり、後世に伝えたい地域の宝です。しかし、この中山地区においても地域住民の高齢化が進み、棚田の約3割が耕作放棄地となり、農地の保全や地域の活性化など、地域の方々が将来への危機感を抱いていました。

このような中、地域文化の源である「千枚田」を後世に伝えようと、地元住民自らが立ち上がり、平成25年6月に「小豆島町中山棚田協議会(会長 九野賢輔氏)」を設立しました。

協議会の活動内容は、田植え作業などの農作業体験や伝統行事への参加を通じて、島内外の方々へ中山地区の魅力を発信しています。

また、国内の教育機関をはじめ、海外の大学生も受け入れるなど、地域の活力づくりに努めるほか、国際協力にも寄与しています。

さらに、良質米が生産できる地域であり、生産された「棚田米」は多くの消費者に喜ばれているほか、地元酒造会社と連携し酒米づくりにも取り組み、新たな価値の創出を行っています。

九野会長からは「地域の伝統文化であり、小豆島の観光資源である中山の棚田を地域の皆様や棚田に関心がある島内外の皆様と共に守っていきたい」と、棚田保全に対する強い思いが語られました。

引き続き普及センターでは、「小豆島町中山棚田協議会」の取り組みを支援するとともに、「中山千枚田」が全国に誇れる棚田として後世に引き継がれることを期待しています。



農村歌舞伎

稲わらは土づくりの資源です ～燃やさず、すき込みましょう～

近年、県内では稲わらの焼却による煙の苦情や、炎に囲まれて亡くなる痛ましい事故も発生しています。

稲わらは、土づくりにとって大切な有機質の資源です。また、すき込むことで、サルやイノシシの餌場発生防止につながります。

出来るだけ焼却せず有効に活用し、環境に配慮した米づくりを行いましょう。

● すき込みの効果

- 1 堆肥と同様に「土づくり」につながります。
- 2 根の張りが良くなります。
- 3 土が軟らかくなります。



● サルやイノシシなどの餌場をなくす

落ち穂やヒコバエ（二番穂）が、サルやイノシシの餌場となり、周辺作物への被害を拡大させます。

このため、水稻収穫後、早めにすき込みましょう。



電気柵の適正な設置・管理でイノシシの侵入防止!

イノシシの侵入防止には、電気柵やワイヤーメッシュ柵が有効です。

前年被害の発生した小豆島町の水稲栽培ほ場で、電気柵の展示ほを設置したところ、高い侵入防止効果が確認されました。

2019年



収穫皆無となったコシヒカリ



踏み倒されたヒノヒカリ

来年は
侵入防止柵を
設置しよう!



電気柵は、軽量で設置が比較的簡単です。設置後は、定期的な除草や、通電の確認が大切です。

柵は、獣種やほ場の条件に合ったものを選びましょう。



2020年



柵線20cm間隔をキープ
設置後すぐに通電開始



柵の前で立ち止まるイノシシ



定期的に除草・電圧確認



効果を実感、実りの秋!



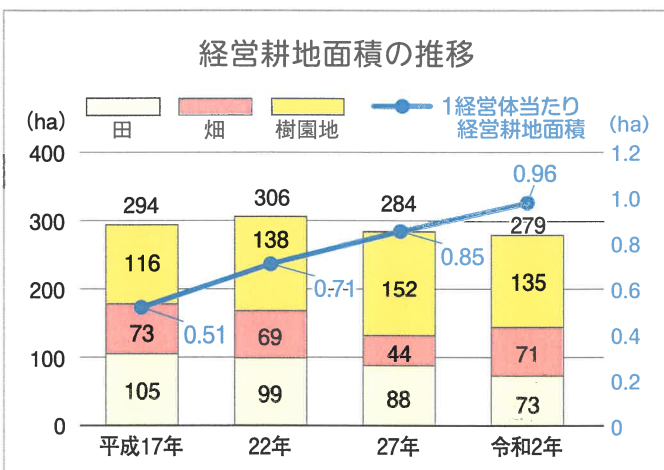
設置方法でお悩みの方は、お気軽に普及センターまで御相談ください。

統計で見る管内の農業

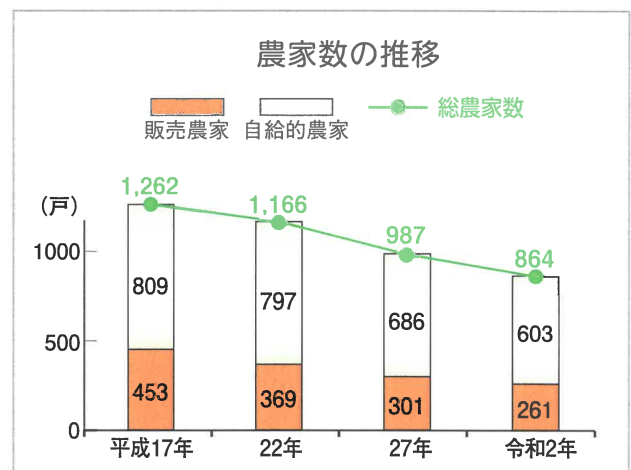
農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源の実態などを調査した農林業センサスなど統計データを活用し、管内における農業・農村の現状について分析しました。

経営耕地面積は農業従事者の減少や高齢化などを背景に、平成22年以降減少傾向にあります。当管内は、水田面積が少なく樹園地が多いのが特色です。1経営体当たり経営耕地面積は0.96ha（県平均1.08ha）で、経営体数の減少などに伴って拡大傾向にあります。

総農家数は864戸で、平成27年と比べて約13%減少しました。このうち販売農家は261戸で約3割（県全体55%）と低く、自給的農家が3分の2を占めます。また、個人経営体の主副業別農業経営体数の割合は、主業農家が約18%、準主業農家が約9%、副業的農家が約73%であり、県全体と同様な傾向でした。



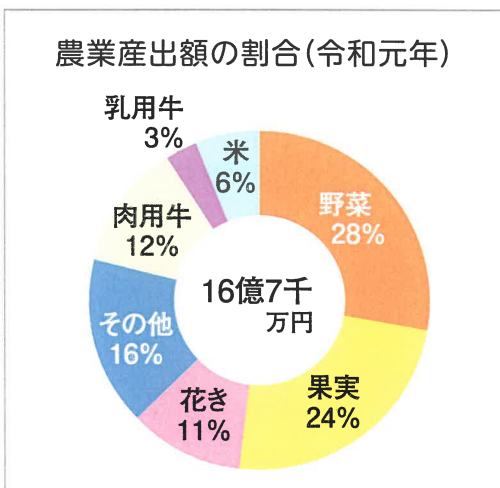
資料：農林水産省「農林業センサス」



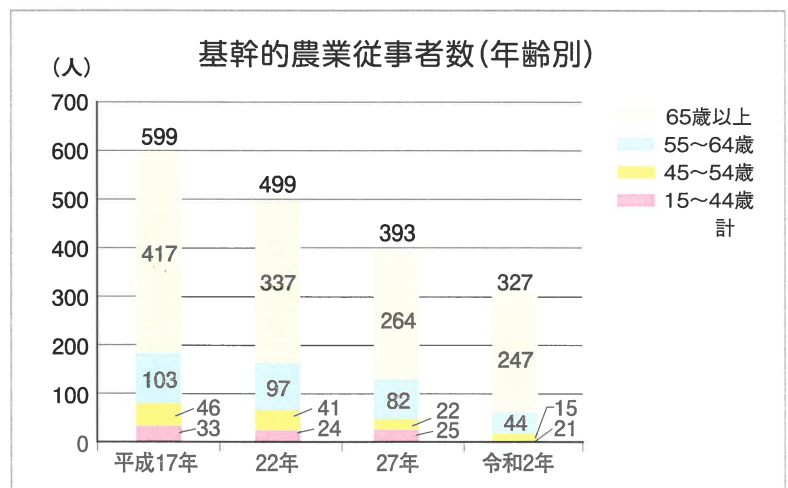
資料：農林水産省「農林業センサス」

令和元年の農業産出額は16億7千万円で、その内訳は、野菜28%、果実24%、肉用牛12%、花き11%などの順となっており、平成27年に比べて2億5千万（約18%）増加しました。主な農産物は、イチゴ、アスパラガス、柑橘類、オリーブ、キウなどで、近年はオリーブの栽培面積が増加しています。

農業労働力は、令和2年の基幹的農業従事者327人のうち、65歳以上の高齢者の割合が約76%と高くなっており、農業の持続可能性を図るため、農業の円滑な経営継承を含め、担い手の確保・育成が喫緊の課題となっています。



資料：農林水産省「生産農業所得統計」



資料：農林水産省「農林業センサス」

そこで、担い手不足の課題解決を図るため、普及センターでは別添の開催チラシのとおり「経営継承」におけるポイントについての講演会、個別相談会を開催します。5年後、10年後を見据えて、多数の方の参加をお待ちしています。



令和3年産 小豆地域 「コシヒカリ」食味コンクールを開催します



参加要項

● 出品者

令和3年に小豆地域で「コシヒカリ」(減農薬・減化学肥料栽培は除きます)を生産し、農産物検査を受検又は種子や苗の購入が確認できる生産者としてします。



● 出品条件及び申込み

- ・ 出品は1点とします。
- ・ **玄米サンプル300g**を食味コンクール申込書に必要事項を記入し、締切日までにJA各支店、JAふれあいセンター又は小豆農業改良普及センターへ御提出ください。(提出された玄米は返却しません)

● 募集期間

令和3年9月～10月15日

● 分析結果及び表彰

- ・ 分析結果をお知らせします。
- ・ 審査結果上位の生産者には表彰を行います。



お問い合わせ先

香川県小豆農業改良普及センター
☎0879-75-0145



「そら豆醤油」用のソラマメを栽培してみませんか 原料となる乾燥ソラマメの生産に取り組む「チームそら豆」



そら豆醤油は、「大豆や小麦のアレルギーで醤油が食べられない子供に、おいしい醤油で料理を食べさせたい。大豆や小麦を使わない醤油はできないの?」という相談がきっかけで、(株)高橋商店が香川県産業技術センター発酵食品研究所と、2年をかけて研究し商品化したものです。当初は外国産の原料を使用していましたが、消費者から、「国産ソラマメで作れないか」という要望があり、(株)高橋商店の呼びかけにより、平成20年に「チームそら豆」が結成されました。



現在、土庄町四海地区を中心に12名の会員が栽培していますが、まだまだ数量が足りません。そこで!



新規栽培者を募集しています!

チームそら豆では、初めて栽培する人にも取り組めるよう、講習会やほ場の巡回等でサポートしています。小面積からでもOKです。興味のある方は、普及センターまで御相談ください。

小豆島オリーブ牛研究会のホームページ開設

- 「オリーブ牛ってどんな牛?」
- 「小豆島オリーブ牛ものがたり」

研究会の活動・小豆島オリーブ牛の情報をチェック!!



<https://1st-olivebeef.jp/>

The-1st 小豆島オリーブ牛 |

検索